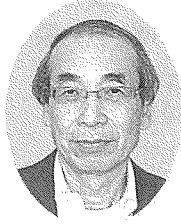


岡山県支部 27日に設立 年次大会で事業計画など報告 日本技術士会中国本部



(公社) 日本技術士会
中国本部 (大田一夫本部長) は13日、公益社団法人



年次大会の様子

人移行後初めてとなる年次大会を広島市中区の広島市文化交流会館で開き、25年度事業計画や収支予算などの報告を行った。

はじめに、去る4日に本部長に選任された大田氏(写真)が挨拶に立ち、「多様なCPD機会の提供」「内向きから外向きの活動への転換」「県支部の早期設立」といった3つの抱負について語るとともに、「中国本部の

前身である中・四国支部は昭和40年に設立された。したがって、2年後の平成27年には節目の50周年を迎えることになり、その年の年次大会は設立50周年を祝う盛大なものにしたいと考えている。そのため、私を含めたこの2年間の役員の役割は、一口で言うと、これまでの50年の集大成と、これからの50年の基盤づくりと認識している」などと述べ、中国本部への一層の支援と協力を呼びかけた。

このあと、平成24年度事業報告・収支決算、25年度事業計画・収支予算などを報告。また、中国本部組織、委員会委員などについて説明した。その中で、24

年度に実施したCPD等の行事は、合計で約200時間にのぼり、参加者は約1800人だったと説明があった。また、25年度事業計画では、技術士の資質向上、社会貢献活動の推進、戦略な情報発信及び地域に密着した活動などを積極的に展開していくことを申し合わせたほか、今月27日に岡山県支部を立ち上げることにについて説明などが行われた。

総会終了後は、山口大学大学院理工学研究科の三浦房紀教授が『南海トラフ巨大地震と中国地方』をテーマに講演。三浦教授は「大きな災害が起きた時、今の法律では対応できない状況にある」と指摘し、BCPの重要性や陸・海・空の連携などを強調した。